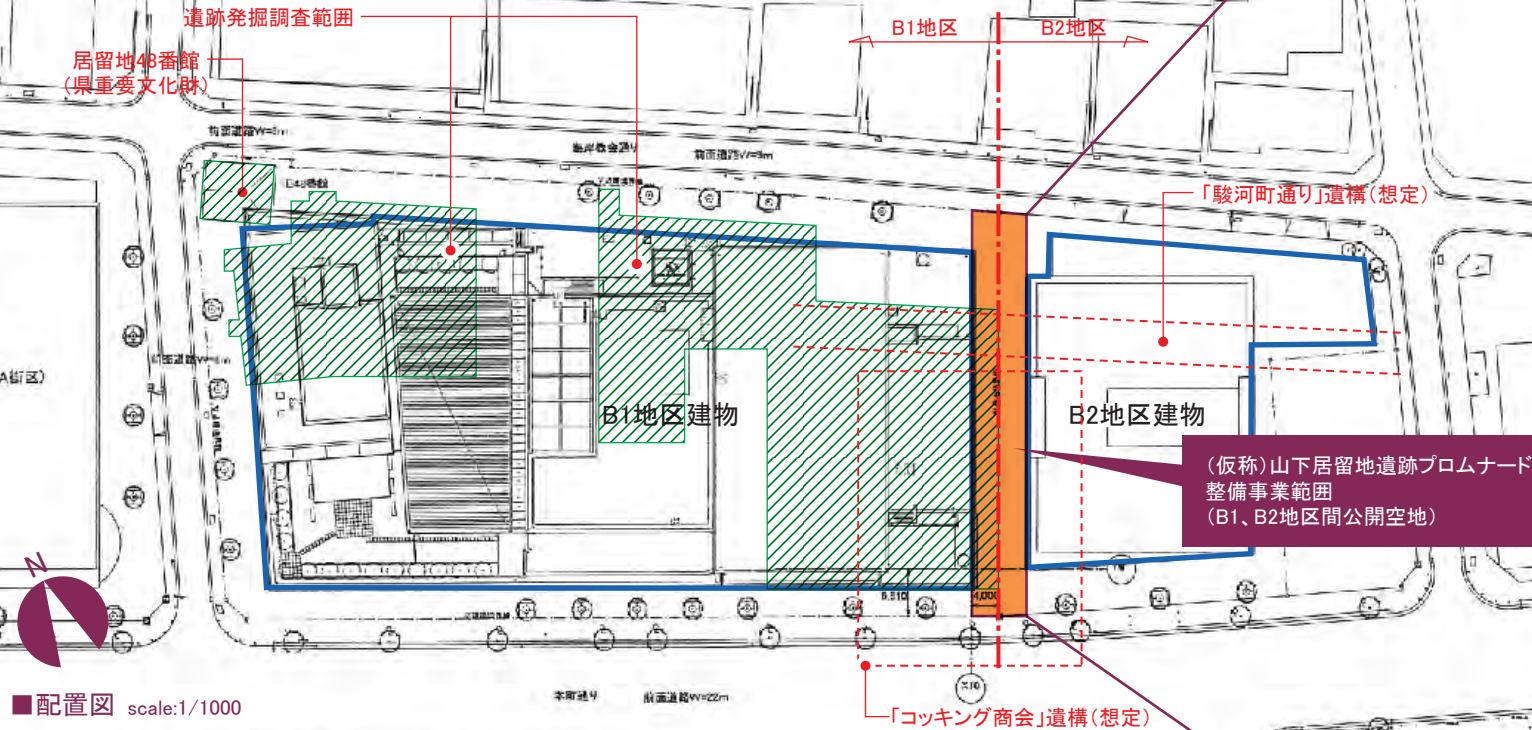


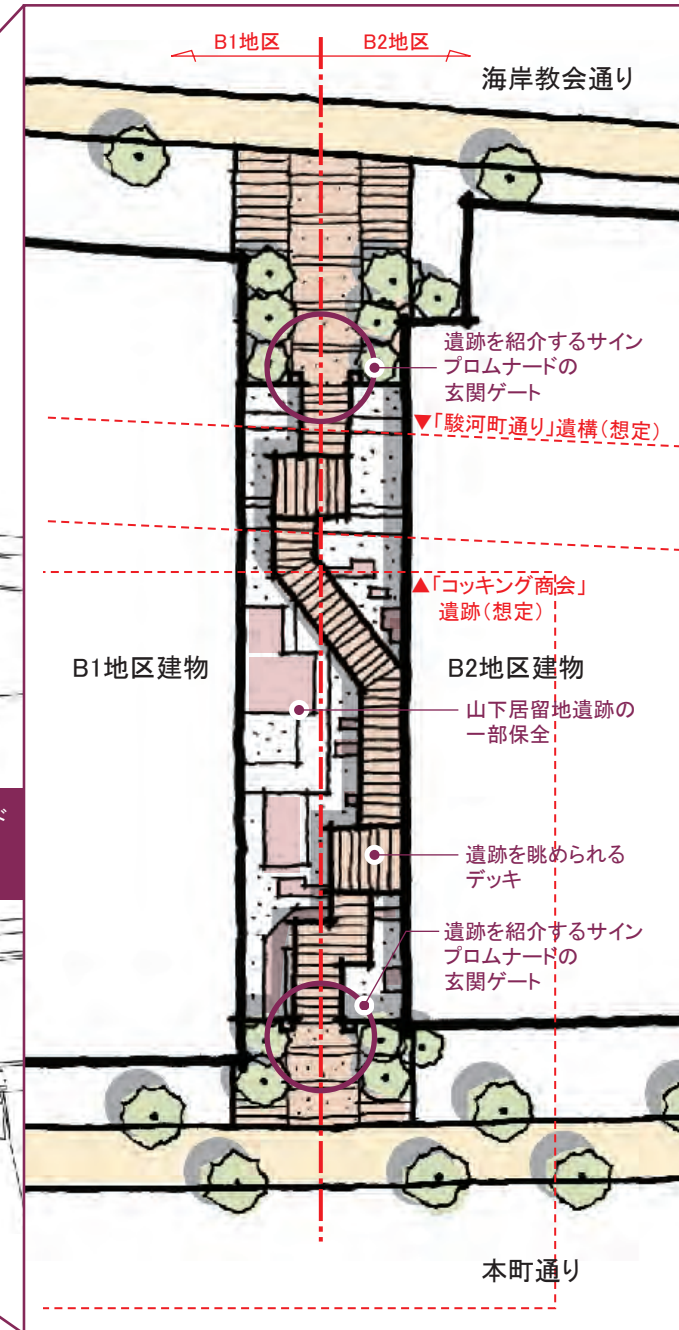
続く150年後への遺産 ～ 開港から150年を生き続けたハマの歴史プロムナード ～

神奈川県が予てより進めてきた横浜山下町地区第一種再開発事業(B1地区、B2地区)の事業敷地で出土した大規模で良質な居留地等の遺跡は横浜の開港以来150年の歴史そのものです。当該遺跡の中でも居留地当時の都市構造を如実に示している「コッキング商会」の遺構と「駿河町通り」の遺構は、B1地区とB2地区の間に計画されている広場(公開空地)を中心として配置されていることが分かります(下図参照)。この配置であれば幸運なことに、省スペース直接土留工法等の仮設工法を採用することにより、既成の建築計画をほとんど変更することなく遺跡(文化財)としての一部現地保存が可能です(右図参照)。居留地建物遺構と道路遺構が一体となった都市構造を現す遺跡は、全国的に見ても大変貴重で文化的、資料的価値の高いものです。これを目に見える形で次世代に継承してゆくことは、開港150年を経て現代の横浜に生きる私たちの義務であり、150年後を生きる私たちの子孫への大切な遺産となるのです。

※出典資料：
 横浜市山下町地区第一種市街地再開発事業B1地区に伴う発掘成果(財)かながわ考古学財団)
 横浜山下町地区第一種市街地再開発事業B1地区(※B2地区)施設建築物建築計画のお知らせ(独立行政法人都市再生機構(※株式会社 ゼファー))



■ 公開空地を利用した遺跡プロムナード整備イメージ図 scale:1/400



←歴史的遺構を保全し、公園施設等として市民に開放している事例
 写真左: プラフ80メモリアルテラス(中区/元町公園内)
 写真右: 旧税関事務所遺構(中区/赤レンガパーク内)